NO_X	校正ガス	ゼロ調整時	N_2	高純度N_2（HC：１ppmC等価以下、CO：１ppm以下、CO_2：400ppm以下、NO：0.1ppm以下）
		スパン調整時	NO、N_2バランス	
	オゾン発生源ガス		酸素（純度99.5％ｖ／ｖ以上）又は高純度空気（HC：１ppmC等価以下、CO：１ppm以下、CO_2：400ppm以下、NO：0.1ppm以下、酸素含有率：18～21％ｖ／ｖ）＊オゾン発生器の原理による。	
CO_2	校正ガス	ゼロ調整時	N_2	高純度N_2（HC：１ppmC等価以下、CO：１ppm以下、CO_2：400ppm以下、NO：0.1ppm以下）
		スパン調整時	CO_2、N_2バランス	

表１

②　校正ガスは、ガス分割器によることができる。

③　校正ガスの濃度表示の精度は、表示濃度の±２％以内であること。また、ガス分割器による場合は分割される濃度の±２％以内であること。

④　分析計のスパン調整に用いる校正ガスの濃度は、分析計のフルスケールの70％～100％程度であること。

別紙４

使用する記号

記　　号	定　　義	単　　位
a	多項式関数の係数	—
aT	前輪の転がり抵抗力	N
b	多項式関数の係数	—
bT	空気抵抗関数の係数	N／（km／h）^{2}
c	多項式関数の係数	—
C_{COcorr}	一酸化炭素の補正済み濃度	容量％
CO_{2c}	希釈空気を考慮して補正した希釈ガスの二酸化炭素濃度	％
CO_{2d}	補正済み希釈空気サンプルにおける二酸化炭素濃度	％
CO_{2e}	補正済み希釈空気サンプルにおける二酸化炭素濃度	％
CO_{2m}	試験パート中に放出された二酸化炭素の質量	g／km
CO_c	希釈空気を考慮して補正した希釈ガスの一酸化炭素濃度	ppm
CO_d	補正済み希釈空気サンプルにおける一酸化炭素濃度	ppm
CO_e	補正済み希釈空気サンプルにおける一酸化炭素濃度	ppm
CO_m	試験パート中に放出された一酸化炭素の質量	g／km
d_0	標準の周囲相対空気密度	—
dCO	一酸化炭素の密度	kg／m^3
dCO_2	二酸化炭素の密度	kg／m^3
ＤＦ	希釈係数	—
dHC	炭化水素の密度	kg／m^3
dist	サイクルパートにおいて走行した距離	km
dNO_X	窒素酸化物の密度	kg／m^3
dT	試験条件での相対空気密度	—
Δt	惰行時間	s
Δt_{ai}	最初の道路試験で測定した惰行時間	s
Δt_{bi}	２回目の道路試験で測定した惰行時間	s
ΔT_E	慣性負荷（m_T+m_{rf}）について補正した惰行時間	s
Δt_E	基準速度でのシャシダイナモメータ上の平均惰行時間	s
ΔT_i	指定速度での平均惰行時間	s
Δt_i	速度に対応する惰行時間	s
ΔT_j	指定速度での平均惰行時間	s
ΔT_{road}	目標惰行時間	s
$\overline{\Delta t}$	吸収なしのシャシダイナモメータ上の平均惰行時間	s
Δv	惰行速度間隔（２Dv＝v_1-v_2）	km／h
e	シャシダイナモメータの設定誤差	％
F	転がり抵抗力	N
F*	目標転がり抵抗力	N
$F^*(v_0)$	シャシダイナモメータ上の基準速度での目標転がり抵抗力	N
$F^*(v_i)$	シャシダイナモメータ上の指定速度での目標転がり抵抗力	N
f_0^*	標準周囲条件での補正済み転がり抵抗	N
f_2^*	標準周囲条件での補正済み空気抵抗係数	N／（km／h）^{2}
F_j^*	指定速度での目標転がり抵抗力	N
f_0	転がり抵抗	N
f_2	空気抵抗係数	N／（km／h）^{2}